

学校番号 11

秋田県立男鹿工業高等学校 中期ビジョン（5か年計画）
～令和3年度から令和7年度まで～

I 本校が目指す姿

1 学校の現状や課題

昭和56年に開校してから令和3年に創立40周年となり、機械科、電気電子科、設備システム科の3学科において、「創意実践」の校訓の下、地域に貢献する技術者の育成を目指している。



(1) 生徒数

少子化の影響もあり募集定員に対する充足率が低下しており、3学科の充足率が約70～約78%である。

(2) 進路状況

近年の進路達成率は100%であり、就職は約70%、進学が約30%である。就職の内訳は県内が約70～約80%、進学の内訳は4年制大学が約30～約40%で国公立大学には1～2名が進学している。

(3) 部活動

空手道部は男女とも全国大会出場経験が豊富であり、ラグビー部は全国大会に4度出場を果たすなど活発であるが、部員不足に悩んでいる。

(4) 資格取得、コンテスト

資格検定試験に積極的に挑戦している。中でも令和5年度の「第3種電気主任技術者」試験に学校初となる合格者を輩出した。コンテストではものづくり等のコンテストに積極的に挑戦している。令和5年度秋田県立大学の「3Dデザイン&3Dプリントコンテスト」で2年生が最優秀賞を受賞した。

(5) 地域との連携について

近隣の小学校や特別支援学校を対象にしたものづくりを通じた交流を実施している。

2 学校を取り巻く将来の状況の予測

(1) 男鹿海洋高校との統合

男鹿海洋高校と統合し、地域に根ざした特色ある教育活動を通して、地域産業に貢献できる人材育成を目指す学校となることの検討が進められている。

(2) 少子化の進行

本校入学者数の約8割弱を占める男鹿潟上南秋地区内の中学校卒業生数は、令和8年3月まで500人前後を漸減しながら推移する見込みである。又、入学者割合が2割強を占める秋田市内の中学校卒業生数も減少することが予測されていることから、入学者の確保は年々厳しさを増すことが予想される。

(3) 進路動向の変化

県内就職希望者が増加しており、他校の希望者との競争がさらに厳しい状況となることが想定される。

(4) 洋上風力発電事業

「能代市、三種町及び男鹿市沖」では令和3年秋に事業者が決定した。今後、雇用の創出等が期待される。

3 スクール・ポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー（目指す生徒像）

- ① 基礎的な学力と専門的な知識・技術を身に付け、ふるさとを愛し、地域社会と産業の活性化を担う幅広い視野と柔軟な発想をもつ生徒。
- ② 自ら学び続ける意欲と課題解決に主体的かつ協働的に粘り強く取り組む態度を身に付けた生徒。
- ③ 部活動やものづくり等のコンテスト、資格検定試験に積極的に挑戦する生徒。

(2) カリキュラム・ポリシー（本校の学び）

- ① 思考力、表現力、幅広く柔軟なものの見方・考え方等、課題解決のための実践的な力を育成する。
- ② 地域の教育資源を活用しながら、探究的な学習活動を通して高度な知識・技術を育成する。
- ③ 産学官連携事業等を通して、専門的かつ高度な技術を育成する。

(3) アドミッション・ポリシー（求める生徒像）

- ① ものづくりを通して地域や社会の発展に貢献しようとする意欲をもつ生徒。
- ② 工業の知識・技術の習得に主体的かつ協働的に取り組む意欲をもつ生徒。
- ③ 部活動において顕著な成果を収めており、入学後も継続して活動する意欲をもつ生徒。

II 5年間を通しての具体的な目標と取組

I 5年間を通しての具体的な目標

- (1) 入学者数
90名（定員充足率85%）以上の入学者確保を目指す。
- (2) 進路希望
就職・進学を合わせた進路達成率100%を継続するとともに、就職は県内就職率75%以上、進学は毎年1名以上の国公立大学合格を目指す。
- (3) 部活動等について
部活動の加入率を80%以上とし、部活動の活性化を図る。又、全国大会出場を目指す。
- (4) 資格取得、コンテスト
各種資格検定試験の受験者を増やすとともに、合格率の向上を目指す。又、各種ものづくり等のコンテストにおいて、上位入賞、全国大会出場を目指す。

2 目標を達成するための具体的な方法、取組等

- (1) 学力向上のための授業改善
 - ① 生徒の学習意欲を高め、基礎的な学力の定着を図るとともに、教科を越えた相互の授業参観を実施し、効果的なICT活用と組織的な授業改善を推進する。
 - ② 授業アンケートを全校一斉・全教科で年2回実施し、組織としての課題を定期的に把握し、授業改善に役立てる。
- (2) 個に応じた進路指導体制の充実
 - ① 同窓会、PTA、地元企業等と連携した就職支援体制の強化・充実を図る。
 - ② 進路志望調査や面談等を通して進学希望者の掘り起こしを行い、組織的な進学指導の充実を図る。
- (3) 教育・研究機関や企業等との連携
 - ① 大学や地域企業等との連携による授業や実践的なものづくり、就業体験等の更なる充実を図る。
 - ② 洋上風力発電関連産業等、高い技術力をもつ企業と連携して、より実践的なカリキュラムマネジメントを推進する。
- (4) 地域社会との交流
 - ① 近隣の小学校や特別支援学校とのものづくりを通じた交流を継続する。
 - ② 地域社会において専門を生かしたボランティア活動を実施する。
- (5) 学校情報の積極的な発信
 - ① 男鹿潟上南秋地域の中学校教員や保護者を対象にした公開授業等を実施し、本校に対する理解を促進する。
 - ② ホームページを有効活用し、学校の情報を積極的に発信する。
- (6) 男鹿海洋高校との交流
統合に向けて、生徒会活動や課題研究発表会等で交流し、両校生徒の相互理解を深めるとともに、保護者、学校評議員、地域企業の方にも学習成果等を披露し、両校の存在をアピールする。

令和3年5月策定、令和5年5月一部改訂、令和6年4月一部改訂